

『このミス』大賞シリーズ



累計80万部突破 & 連ドラ化で話題の『元彼の遺言状』シリーズ最新刊 『剣持麗子のワンナイト推理』4/8発売

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)は第19回『このミステリーがすごい!』大賞・大賞受賞作品『元彼の遺言状』のシリーズ第3弾として『剣持麗子のワンナイト推理』を2022年4月8日(金)に発売します。本書の発売をもってシリーズ累計発行部数は80万部を突破します。

『剣持麗子のワンナイト推理』は、女性弁護士・剣持麗子が、大手法律事務所で忙しく働く業務の合間、主に深夜から朝までに、クライアントから舞い込む難題を解決していくミステリーです。殺人などの刑事事件とタイムリミット・サスペンスの要素をあわせ持った、シリーズ初の連作短編集となります。5つの事件を解き明かしていく、麗子の推理力と行動力をお楽しみください。

シリーズ第1弾の『元彼の遺言状』は、「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という元彼の奇妙な遺言を受け、剣持麗子が依頼人と共謀して分け前を狙う遺産相続ミステリーです。同書を原作とする、綾瀬はるかさん主演、大泉洋さん共演の連続ドラマが4月11日(月)から毎週月曜よる9時・フジテレビ系にて放送されます。ドラマには『剣持麗子のワンナイト推理』収録のエピソードも一部登場いたします。またドラマ放送に合わせ、綾瀬はるかさんのビジュアルを使用した特別カバー版の『元彼の遺言状』文庫が3月より順次店頭と並んでいます。

シリーズ第3弾、最新作!



『剣持麗子のワンナイト推理』
発売日:2022年4月8日/定価:1540円(税込)

第1弾『このミス』大賞受賞作



『元彼の遺言状』(宝島社文庫)
発売日:2021年10月6日/定価:750円(税込)

シリーズ第2弾!



『倒産続きの彼女の彼女』
発売日:2021年10月6日
定価:1540円(税込)

『剣持麗子のワンナイト推理』

『元彼の遺言状』のヒロイン・剣持麗子が奮闘する連作短編集が登場!

森川栄治が残した遺言状の騒動に巻き込まれ、亡くなった村山弁護士のクライアントを引き継ぐことになってしまった剣持麗子。都内の大手法律事務所で忙しく働く麗子は、業務の合間(主に深夜)にクライアントからの相談に乗る羽目になり……。次々に舞い込む難題を、麗子は朝までにどう解決する?

「ワンナイト推理」というタイトル通り、夜中に呼び出された主人公が眠い目をこすりながら謎を解く、睡眠不足ミステリーです。時系列的には『元彼の遺言状』から『倒産続きの彼女の彼女』までの期間に起きたエピソードとなっていますので、過去二作とあわせて読むと三倍面白いですが、本作からでも楽しんでいただきたいと思います。

新川帆立(しんかわ・ほたて)プロフィール ★著者取材、ご相談ください!

1991年2月生まれ。アメリカ合衆国テキサス州ダラス出身、宮崎県宮崎市育ち。東京大学法学部卒業後、弁護士として勤務。作家になるために「粘り強く長期戦に対応できるための食い扶持が必要」と考え弁護士になる。第19回『このミステリーがすごい!』大賞で大賞を受賞し、『元彼の遺言状』で2021年デビュー。現在は作家として活動。アメリカ在住。

新川さんのコメントは
2枚目に続きます

剣持麗子、再登場！ 新川帆立が疲れた大人に贈る、睡眠不足ミステリー



本作では人気キャラクター・剣持麗子が再び主人公として活躍！

剣持麗子の話を読みたいという読者さんの声もいただいていたし、私もまた麗子ちゃんに会いたかったと思ったので、再登場させました。別の弁護士を主人公に据えた長編の構想もあるので、今後も様々な人間を描いていきたいと思っています。

「ワンナイト推理」というアイデアのきっかけ

弁護士の仕事が忙しい剣持麗子は、日中は謎解きをしている暇がありません。事件に巻き込まれるなら夜中になるだろうと思い、自然と深夜の謎解きものになりました。

眠らない街・新宿が舞台。麗子とタッグを組む新キャラクターも登場

深夜に謎解きをするなら、眠らない街・新宿を舞台にしようと考えました。新宿界隈にどのような人間がいるかを考えたうえで、剣持麗子と面白い化学反応を起こしてくれそうな人を配置しました。

シリーズ初の連作短編集。すきま時間に気軽に手にしてほしい

夜寝る前に一話ずつ読むと、主人公と一緒に夜更かししている気分になって楽しいかなと思い、このような構成にしました。一話が短いぶん、すきま時間にお手に取っていただきやすくなっているかと思っています。



『剣持麗子のワンナイト推理』
発売日：2022年4月8日
定価：1540円(税込)

累計80万部突破！『元彼の遺言状』シリーズ



■『元彼の遺言状』あらすじ

「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」。奇妙な遺言状を残して、大手製薬会社の御曹司・森川栄治が亡くなった。学生時代に彼と3カ月だけ交際していた弁護士の剣持麗子は、犯人候補に名乗り出た栄治の友人の代理人として、森川家が主催する「犯人選考会」に参加することとなった。数百億円ともいわれる遺産の分け前を勝ち取るべく、麗子は自らの依頼人を犯人に仕立て上げようと奔走する。他方で、彼女は元カノの一人としても軽井沢の屋敷を譲り受けることになっていた。ところが、軽井沢を訪れて手続きを行ったその晩、くだんの遺言状が保管されていた金庫が盗まれ、さらには栄治の顧問弁護士が何者かによって殺害されてしまう……。



■『倒産続きの彼女』あらすじ

山田川村・津々井法律事務所に勤める美馬玉子。地方出身で、懸命な努力をして弁護士になった玉子は、容姿端麗、首都圏出身で恵まれた家庭環境で育った一年先輩の剣持麗子に苦手意識を持ちながらも、ボス弁護士・津々井の差配で麗子とコンビを組むことになってしまう。

クライアントである倒産の危機に瀕する老舗のアパレル会社・ゴーラム商会を救うため、二人は会社を倒産に導く女と噂される経理課の近藤まりあへの身辺調査を行うことになった。ブランド品に身を包み、身の丈に合わない生活をSNSに投稿している近藤は、会社の金を横領しているのではないかと？ しかしその手口とは？ ところが調査を進めるなか、ゴーラム商会の「首切り部屋」と呼ばれる小部屋で死体が発見され……。

■『このミステリーがすごい！』大賞とは？

ミステリー&エンターテインメントブックガイド『このミステリーがすごい！』を発行する宝島社が、新時代の新しいミステリー&エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に、2002年に創設した新人賞。大賞賞金は文学賞最高額である1200万円。受賞作はすべて書籍化。第153回直木賞を受賞した東山彰良氏や、累計1000万部突破の『チーム・バチスタの栄光』シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出している。受賞作品からは多数のベストセラーが生まれ、『警視庁捜査二課・郷間彩香 特命指揮官』（梶永正史・2016年テレビドラマ化）、『一千兆円の身代金』（八木圭一・2015年テレビドラマ化）、『がん消滅の民 完全寛解の謎』（岩木一麻・2018年テレビドラマ化）など、映像化作品も多数世に送り出している。また、受賞には及ばなかったものの、将来性を感じる作品を「隠し玉」として他の受賞作と同様に書籍化しており、『スマホを落とすだけなのに』シリーズ（志駕晃・2018年、2020年映画化）などの話題作も生み出している。

